

# 令和5年度 第1回 市川市博物館協議会

日 時 令和 5年 8月 9日(水)  
午後2時 ～ 午後4時  
会 場 市立市川歴史博物館 2階講堂

## 会 議 次 第

### 議 題

- (1) 報告事項
  - ・令和4年度 事業実施状況に対する自己評価について
  - ・令和5年度 館別事業計画について
- (2) 協議事項
  - ・令和4年度 事業実施状況に対する外部評価について
- (3) 歴史博物館企画展「みなさまと歩んだ博物館」見学
- (4) その他
  - ・次回の協議会（開催日程等）について

## 令和4年度 事業実施状況に対する外部評価

評価基準 A：参加者数、内容、参加者満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた。（目標の90%以上）  
 B：ほぼ見込みどおりの結果を得た。（目標の80～75%程度）  
 C：改善の余地があるものと考えられる。（目標の60%程度）  
 D：今後の計画に際しては、実施を含めて検討する必要があると思われる。（目標の50%に満たない）  
 ー：コロナ禍で事業未実施のため、評価できず。

事業種別	館名	館別意見（概略）	館別自己評価	総合自己評価	外部意見等	外部評価
収集・保管及び調査研究	考古	誕生釈迦仏などの調査や報告書作成、資料管理などを随時実施した。	B	B		
	歴史	収蔵資料の整理や目録作成が進んだほか、図書整理や研究会参加も年間を通して実施した。	B			
	自然	資料の整理、収集やデータベース化、生物調査を進めた。	B			
展示	考古	通年開館したほか、企画展「遺伝子からみた古代のイヌ」、小企画展、学校巡回展、展示解説などを開催した。	B	B		
	歴史	年間を通して開館し企画展「発見・体験 昔の暮らし」のほか、小企画展や収蔵資料展を5件開催した。	B			
	自然	感染拡大防止対策（閉館後の消毒、椅子の撤去、ハンズオンの中止など）を行い、コロナ前に近い形で開催できた。	B			
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	考古	感染拡大防止に配慮しつつほとんどの事業を再開した。	B	B	
	歴史	一部を除いて再開していった。	B			
	自然	コロナ禍の市の方針に従い、事業はほとんど実施しなかった。	ー			
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	考古	事業により依頼が少なかったり規模が小さいままであるが、感染拡大防止に配慮しつつ実施した。	B	B	
	歴史	依頼が少なかったが、内容を変更したり、コロナ禍に対応した指導を行った。	B			
	自然	市内小学校や幼稚園、大学等から計44件の依頼があった。	B			
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	考古	友の会や外部からの依頼により、感染拡大防止に配慮しつつ協力した。	B	B	
	歴史	友の会の自主事業や公民館主催講座、外部依頼などに協力した。	B			
	自然	関係課、公民館、市民団体等から計23件の依頼があった。	B			
運営	考古	例年通り印刷物を製作し、行事予定や事業・研究実績などを周知した。	B	B		
	歴史	例年通り印刷物を製作し、行事予定や事業・研究実績などを周知した。	B			
	自然	一部を除いて予定通りに印刷物を製作した。	B			

令和4年度 考古博物館 事業実施状況評価

評 価 基 準  
 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)  
 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)  
 C:改善の余地あり(60%程度)  
 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)  
 --:コロナ禍で事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	A	文化財保護事業や市史編さん事業と連動しながら調査を進め、常設展示の誕生釈迦仏が有形文化財（彫刻）として千葉県に指定されるなどの成果があった。	寄附された（伝）大字国分出土直刀などの調査を進める。
	市史編纂関係報告書作成（曾谷貝塚・下総国府）	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	曾谷貝塚や下総国府の報告書作成を進めた。	引き続き実施する。
	博物館資料の管理（図書及び関係機関住所等管理）	年間約1,000点を登録予定	年間を通して701冊を登録した。	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	寄附資料や常設展示資料の台帳整備も合わせて進める。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間10回以上	8回、8人	C	コロナ禍の影響で、多く実施できなかった。	引き続き実施する。
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	常設展は年間を通して実施した。	B	感染症拡大防止策を講じつつ年間を通して開館した。	感染防止対策を解除する。
	企画展「遺伝子からみた古代のイヌ」	2/12~3/26(37日間)	3,130人	A	須和田遺跡第6地点で出土したイヌの遺伝子を分析して、実物や復元イラストなど関連資料とともに展示した。斬新な企画が新聞で報道されるなど話題を呼んだ。金沢大学の協力。	
	企画展関連講演会「発信 須和田遺跡！ 古代のイヌ」	2/19	108人	A	金沢大学覚張隆史氏、國學院大學山崎京美氏を招いて、イヌの遺伝子や形質など最先端の研究成果をうかがった。	
	ホール小企画展1「市川出土の縄文土器」	前年度~7/31	前年度~7/31 5,846人	B	館務実習を二班に分けた短縮日程で実施し、可能な範囲で展示を製作した。	コロナ禍に対応した館務実習の範囲で実施可能な展示とする。
	ホール小企画展2「市川出土の縄文土器Ⅱ」	8/5~次年度	8/5~次年度 15,363人	B	館務実習を二班に分けた短縮日程で実施し、可能な範囲で展示を製作した。	コロナ禍に対応した館務実習の範囲で実施可能な展示とする。
	学校巡回展	秋を中心に5~6校で開催する	柏井小ほか5校で実施	B	学校巡回展は弥生土器に残るコメの痕跡をテーマにした「土器のあなには何がある？」を小学校6校で開催した。	春も開催して実施校を増やす。
	展示解説	年間を通して、実施した。	72回、2,362人	B	常設展示を補うため、個人、団体（主に小学3年生）とも積極的に解説を実施した。	引き続き実施する。

令和4年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ①全市民対象	考古博物館講座 (『続日本紀』、『日本霊異記』を読む)	ともに月1回	続日本紀 9回、512人 日本霊異記 8回、541人	B	感染症が拡大する危険を避けるために、受講生をグループ分けして1日に複数回実施した。	受講生(大半が市川市民)の期待に応え、『続日本紀』『日本霊異記』講読の講座を継続する。
	考古博物館指導員養成講座(縄文学習・火おこし・組紐)	3種 11回	中止	-	指導員の新規募集は控えた。	実施する。
	ボランティア研修日・活動日(縄文学習・火おこし・組紐)	年間を通して、実施する。	28回、190人	B	目的意識や技術の維持、情報交換のために積極的に実施した。	引き続き実施する。
	考古博物館体験学習(組紐・勾玉・土偶づくり)	対面事業を徐々に復活させる	40回 550人	B	上半期の組紐は職員を中心に実施し、ボランティアも活動を徐々に増やして対応した。	引き続き実施する。
	歴史カレッジ	5/14～9/10 月1回担当	4回 122人	B	コロナ禍で延期し続けた第12期を短縮工程により開催した。	開催形態を改めるなどリニューアルした後継事業を開始する。
	歴史カレッジ講演会「サピエンス日本上陸」	1月21日	118人	A	雷下遺跡出土の丸木舟を契機に計画した渡海実験の講演会。コロナ禍の延期後に実現し、専門知識がなくても楽しめる内容であった。	博物館講演会として実施する。
	夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	493人	B	昨年度に引き続き実施した。	引き続き実施する。
	考古50・歴史40周年記念イベント	11月3日	231人	B	ナイトミュージアムに代わる行事で、野外コンサート、展示解説、火打石・紋切り体験を実施した。	ナイトミュージアムを復活開催する。
	縄文体験フェスティバル	3月26日	351人	B	地元自治会や協力団体による実行委員会形式が維持できなくなったため考・歴主催とし、飲食を模擬店からキッチンカーに変更するなど、内容を改めた。大雨による縮小開催にも関わらず多くの参加者があった。	引き続き実施するが、雨の少ない時期に計画する提案があった。

令和4年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ②学校連携	学校向け体験学習指導	申し込みを受けて実施する。	24校で実施 1,971人	B	出張授業形式で実施した。	引き続き出張形式で実施する。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	2回 4人	B	2校の申込を受けて実施した。	要請があれば、対応していく。
	高校生ボランティア活動支援	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	要請があれば、対応していく。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	申し込みを受けて実施した。	B	随時、対応しているが、概ね満足していた だいている。	事前に連絡がなく来館することもあり、学芸員が不在であることもあった。
	大学生学芸員課程館務実習指導	7/29～8/5	5大学、5人	B	2班にわけて少人数、短期間の展示作業等を実施した。	期間を延ばして実施する。
	大学生展示見学指導	3/2	1回 22人	B	大学コンソーシアム市川から「市川学」見学依頼があった。	要請があれば、対応していく。
	教員対象の博物館利用研修	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	要請があれば、対応していく。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	1回 1人	B	依頼により1日間実施した。	要請があれば、対応していく。
社会科副読本『わたしたちの市川』制作協力	年間を通して実施する。	未実施	-	要請がなかった。	要請があれば、対応していく。	

令和4年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	会報「かいづか」への執筆などに協力した。	要請があれば協力する。
	公民館講座	申し込みを受けて実施する。	5回 56人	B	公民館がコロナ禍で控えていた主催事業を再開し、依頼に協力した。	要請があれば協力する。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	1校 86人	B	1校より依頼があり協力した。	要請があれば協力する。
	外部依頼講座	年間を通して実施する。	講演3件を実施した。	B	3件の依頼があり協力した。	要請があれば協力する。
運営	館報第50号発行	3月、600部	3月、600部	B	令和3年度事業の実績報告と、外部に依頼した炭化材・炭化種実調査の研究紀要からなる。	今後も継続して発行する。
	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回/年	4回/年	B	考古博物館の事業内容をアピールした。	制作及び発行を継続する。
	令和5年度考古・歴史博物館入館案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	B	行事のほか地図の一部を修正した。	今後も継続して発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	考古博物館の施設維持に必要な予算を確保し、適切な維持管理に努めた。	予算が厳しい状況ではあるが、施設維持に必要な経費を要求する。

令和4年度 歴史博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)  
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)  
 基 C:改善の余地あり(60%程度)  
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)  
 -:コロナ禍で事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究、整理及び維持管理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	収蔵資料の古文書(530点余り)・民具(300点余り)整理が進むとともに、収蔵室自体の整理も進んだ。	収蔵資料の数が多く、調査に要する時間や人手が不足している。
	市内学校所蔵資料調査	事前に調整して実施する。	未実施	-	依頼が無かったため、実施しなかった。	郷土学習室のリニューアル等の要望があれば、協力をする。
	資料及び古写真のデータベース化	年間を通して実施する。	古文書目録のデジタル化	B	資料整理の済んだ古文書についての目録作成に取り組んだが、デジタル化については全体的には進んでいない。	作業に要する時間や人手が不足している。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して実施する。	年間318冊を登録	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	図書館の整理を進める。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間を通して実施する。	概ね年間を通して実施した。	B	千葉県史料保存活用連絡協議会(2回参加)、千葉県博物館協議会(1回参加)、他館見学(9館)	可能な限り各種研修会や他館を見学して、資料の保存活用や事業に生かす。
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	年間を通して開館した。また、展示資料の一部入れ替えを実施した。	展示資料の入れ替え等を進める。
	企画展「発見・体験 昔の暮らし」	9月~12月	11/3~1/22 入館者3,745人	B	コロナの感染状況を踏まえながらの展示となったが、再現展示の充実を図ることができた。	コロナ禍以前の内容に近い展示を目指す。
	企画展		実施せず	-		次回は令和5年度の予定。
	小企画展「季節の展示」等	時期に合わせて実施する。	4/16~5/29 7/21~8/31 11/3~1/31 2/23~3/31	B	年間を通して実施できた。(季節の展示、春「全力男子」、夏「ちょっと怖い絵展」、小展示「年中行事・教科書展」、春「花のよそおい」)	季節の展示を中心に、年間を通して様々な内容の展示を行う。
	収蔵資料展	9月~12月	9/7~12/26	B	大学生の博物館実習の一環による展示会で、「しるす、うつす、のこす。」を開催した。	引き続き実施する。
	展示解説	年間を通して実施する。	12回、91人	B	コロナの感染防止に努めながら、希望者に実施をした。	前年度より多く実施する。

令和4年度 歴史博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ①全市民対象	歴史博物館講座（中世、近代等）	中世3回、近代1回	中世 3/12 35人	C	準備不足で中世古文書講座1回しか実施できなかった。	引き続き実施する。
	体験学習指導員研修	10回	10回	A	再開した博物館事業の準備や、他の博物館の事業を視察するなど知見を深める機会を設けた。	引き続き実施する。
	昔の遊び体験（紙芝居、紋切り遊び、火打ち石等）	毎週土・日曜日	31回、370人	B	コロナの感染状況も踏まえながら、事業を増やしていった。	引き続き実施する。
	季節の行事体験（七夕飾り、正月飾り作り）	7月、12月	七夕飾り 7/5～10	B	正月飾り作りは準備不足で実施できなかったが、わら細工を縄文フェスティバルで実施。	引き続き実施する。
	昔の暮らし等の体験講座（洗濯、和綴じ本作り）	8月	洗濯体験 8/27 5人 和綴じ本 8/28 13人	B	事業を再開した。	引き続き実施する。
	歴史カレッジ	10/8～12/10、2/11 月1回担当	4回、104人	B	コロナ禍で延期し続けた第12期を短縮して開催した。	開催形態を改めるなどリニューアルした後継事業を開始する。
	考古50・歴史40周年記念イベント	11月3日	231人	B	ナイトミュージアムに代わる行事で、野外コンサート、展示解説、火打石・紋切り体験を実施した。	ナイトミュージアムを復活開催する。
	縄文体験フェスティバル	3月26日	351人	B	地元自治会や協力団体による実行委員会形式が維持できなくなったため考・歴主催とし、飲食を模擬店からキッチンカーに変更するなど、内容を改めた。大雨による縮小開催にも関わらず多くの参加者があった。	引き続き実施するが、雨の少ない時期に計画する提案があった。

令和4年度 歴史博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ②学校連携	学校巡回展、教材用資料貸出、出前授業	申し込みを受けて実施する。	出前授業 1校 26人 資料貸出 1校	B	塩浜学園で行徳の歴史の出前授業を実施し、昭和学院中学校に戦時代の資料を貸出した。	申し込みがあれば実施する。
	小学生向け体験学習指導(昔のくらし体験)	申し込みを受けて実施する。	21校 2,143人	A	感染症予防対策を取りながら、企画展「発見・体験 昔のくらし」を利用した体験学習を実施した。	引き続き実施する。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	申し込みがあれば実施する。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	申込があれば実施する。
	大学生学芸員課程館務実習指導	8/23、8/30～9/1に実施する。	6大学、6人	B	感染症予防のため期間の短縮を行った。	通常のカリキュラムで実施する。
	大学生展示見学指導	①11/27 ②3/2	2回実施 ① 41人 ② 22人	B	①和洋女子大学 ②大学コンソーシアム市川から「市川学」見学依頼があった。	要請があれば、対応していく。
教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	申し込みがあれば実施する。	

令和4年度 歴史博物館 事業実施状況評価

		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	活動場所の提供、講演会講師、会報の原稿執筆、調査協力などを行った。	要請があれば協力をする。
	公民館講座（公民館主催講座への講師派遣）	申し込みを受けて実施する。	1回 10人 動画作成協力 2回	B	講座の講師と公民館が配信する動画の作製の協力を行った。	要請があれば協力をする。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	未実施	-		要請があれば協力をする。
	外部依頼講座	年間を通して実施する。	1回 35人	B	講座の講師依頼が1件あり協力をした。	要請があれば協力をする。
運営	令和3年度歴史博物館館報（紀要）の制作及び発行	3月、600部	3月に600部を発行した。	B	博物館活動の年間記録及び調査研究成果を、他の博物館や一般市民等に提供した。	今後も継続して発行する。
	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回／年	4回／年	B	予定通り発行した。	今後も継続して発行する。
	令和5年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	B	行事のほか地図の一部を修正した。	今後も継続して発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	限られた予算内で適切な施設維持管理に努めた。	施設維持に必要な予算を要求する。

令和4年度 自然博物館 事業実施状況評価

評 価 基 準  
 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)  
 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)  
 C:改善の余地あり(60%程度)  
 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)  
 -:コロナ渦で事業未実施のため、評価できず

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査・整理及び専用パソコン管理	年間を通して実施する。	おもにボランティアの方々の手で作業を実施した。	B	収蔵資料台帳をエクセルで管理しweb公開する、という新たな方針に基づき、ボランティアの方々の手でデータベース化が進行した。新規の資料収集はほとんどなかったが、寄贈標本を受け入れたことで、新たな収蔵資料を得ることができた。	収蔵資料台帳をなるべく早くweb公開したい。
	資料の電子化	年間を通して実施する。	年間を通して実施したが、作業時間は多くなかった。	B	動画を中心に新規データが増えていて、その整理に追われた。そのため、スライドフィルムのデジタル化は、あまり進まなかった。	上記と同じ
	図書管理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	図書資料について、ボランティアの方の協力を得て、書庫の整理が進んだ。	上記と同じ
	長田谷津に関する調査、環境改善、絶滅危惧種保全など	年間を通して実施する。	年間を通して予定した内容の一部を実施した。	B	鳥類を中心とした目視調査、センサーカメラを使った調査、湿地の復元、スナヤツメの繁殖確認などを行った。	引き続き、進めていく。
	トビハゼ調査	年間を通して実施する。	年間を通して予定した内容の一部を実施した。	B	「トビハゼ保全 施設連絡会」の運営と、巣穴調査、稚魚調査は実施したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会議と観察会は開催できなかった。	上記と同じ
	ヒヌマイトトンボ調査	発生期に調査する。	予定通り実施した。	B	市川市指定天然記念物であるヒヌマイトトンボの生息を確認した。	上記と同じ
	剥製製作委託	予算に応じて実施する。	予定通り実施した。	B	鳥類の剥製標本を作製した。	上記と同じ
	各種研究会への参加、関連施設の視察	適宜実施する。	未実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から研究会等の開催が無く、他館の見学も行える状況ではなかった。	令和5年度全国博物館大会への対応を中心に進めていく。学芸員が分科会で事例報告を行う予定。

令和4年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	予定通り実施した。	B	新型コロナ感染拡大防止対策を行いながら、コロナ前に近い形で開館できた。	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更になったことに伴い、消毒作業などを縮小し、休止していた展示などは少しずつ再開する。
	特別展示室の常時活用（飼育展示など）	年間を通して実施する。	予定通り実施した。	B	上記と同じ	上記と同じ
	ホール小展示（飼育展示など）	年間を通して実施する。	予定通り実施した。	B	上記と同じ	上記と同じ
	展示解説	年間を通して実施	必要に応じて来館者対応を行った。	B	マスク着用、控えめの会話という新たなマナーのなかで、寄せられた質問などには随時対応した。	引き続き、進めていく。

教育普及事業 ①全市民対象	おやこ自然観察会	未設定	未実施	-	新型コロナ感染拡大防止対策に関する市の方針に従い、事業はほとんど実施しなかった。	人員の面で対応が難しいので引き続き休止するが、大町公園内の一部区域において虫捕りを解禁したので、そのことを持って代替とする。
	長田谷津散策会	可能と判断されれば実施する。	1回実施した。	B	3月に試験的に1回実施した。	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更になったことに伴い再開する。
	野草名札付け	未設定	未実施	-	新型コロナ感染拡大防止対策に関する市の方針に従い、事業はほとんど実施しなかった。	人員の面で対応が難しいので引き続き休止する。
	大町自然観察園環境整備	未設定	未実施	-	上記と同じ	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更になったことに伴い再開する。

令和4年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題等
教育普及事業 ②学校連携	出前授業	申し込みを受けて実施する。	20回実施した。	B	市立幼稚園、市立および私立、都立小学校から依頼があった。学校への出張のほか、江戸川や江戸川放水路など校外での授業に出張することもあった。	依頼に応じて実施する。
	小学生等自然体験学習指導（グリーンスクール）	申し込みを受けて実施する。	15回実施した。	B	少年自然の家が利用できなかったため日帰りで行った。市立小学校（特別支援学級を含む）のほか、私立小学校からの依頼もあった。	上記と同じ
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	1回実施した。	B	従来の職場体験ではなく、来館して学芸員に仕事についてインタビューする形式で行った。	上記と同じ
	大学生展示見学指導	申し込みを受けて実施する。	4回実施した。	B	東京大学農学部、東京大学理学部、大学コンソーシアム市川「市川学B」の依頼があった。	上記と同じ
	部活動支援	申し込みを受けて実施する。	1回実施した。	B	国府台女子学院ビオトープ愛好会からの依頼があった。	上記と同じ
	大学生学芸員課程館務実習指導	7月～8月	1回実施した。	B	予定したプログラムを行うことができた。	年1回実施する
	千教研研修会	申し込みを受けて実施する。	2回実施した。	B	生活科・総合的な学習部会と理科部会から1回ずつ依頼があった。	上記と同じ

令和4年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	講座講師派遣（関係課、公民館、市民団体等）	申し込みを受けて実施する。	23回実施した。	B	生活環境整備課、国府台町会、本行徳公民館などからの依頼があった。	依頼に応じて実施する。
	大町レクリエーションゾーン（ホテル観賞会開館延長）	7月～8月	未実施	-	実施が計画されなかった	上記と同じ
	大町レクリエーションゾーン（少年自然の家チャレンジ・ヤースクール）	7月	未実施	-	実施が計画されなかった	上記と同じ
	外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	申し込みを受けて実施する。	未実施	-	申し込みがなかった。	上記と同じ

運営	自然博物館だよりの制作及び発行	隔月発行	実施した。	B	予定通り発行したが、発行が遅れた号があった。	予定通り発行する。
	令和4年度自然博物館行事案内の発行	3月、1500部	行事開催のめどが立たなかったため印刷しなかった。	-	配布をしていない	ホームページなどとの役割分担を検討する。
	令和3年度自然博物館年報の制作及び発行	3月、500部	実施した。	B	予定通り実施した。遅れていた令和2年度年報も発行した。	予定通り発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	実施した。	B	予定通り実施した。	上記と同じ

## 令和5年度 考古博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数
収集・調査・研究 保管及び	1. 収蔵資料の調査・整理及びデータベース化	1,000点/年
	2. 市内出土資料調査	年間を通して実施
	3. 博物館資料のパソコン管理（収蔵品・図書・住所ほか）	1,000件/年
	4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時
	5. 文化財担当関係調査	年間を通して実施
	6. 市史編纂関係調査（曾谷貝塚・下総国府）	年間を通して実施
	7. 曾谷貝塚総括報告書作成	年間を通して実施
展示	1. 常設展及び北国分駅構内展示	年間を通して実施
	2. ホール小展示「市川出土の縄文土器Ⅱ」（令和4年度館務実習展示）	～7/30(日)
	3. ホール小展示「直刀展（仮称）」（令和5年度館務実習展示）	8/11(金)～1年間
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	
	1. 博物館講演会「国文学関係」 千葉大学兼岡理恵教授	10/7(土)
	2. 講演会「姥山貝塚の5体の人骨の謎に迫る」 新潟医療福祉大学共催	3/10(日)
	3. 市川歴史セミナー（全8回） 考古・歴史博物館学芸員	6/12(水)～、第2土曜日
	4. 考古博物館講座『日本霊異記』を読む	4/12(水)～、第2水曜日
	5. 考古博物館講座『続日本紀』を読む	4/26(水)～、第4水曜日
	6. 火おこし・縄文学習・組紐指導員の養成講座・活動支援	土・日曜日ほか
	7. 夏休みスタンプラリー	7・8月
	8. 博物館コンサート	8/26(土)
	9. 土器づくり（友の会共催）	11・12月
10. 縄文体験フェスティバル（第24回）	3/24(日)	
学校関連の教育普及	業 子どもの成長や学びを支える事業	
	◎学校関係	
	1. 学校巡回展「弥生土器」	9～12月
	2. 小学生向け縄文体験・出張授業	4～7月
	3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
	4. 大学学芸員課程館務実習指導	8/1(火)～8/10(木)
	5. 千葉商科大学出張展示	年間を通して実施
6. 学生調べ学習指導	年間を通して実施	
◎教員関連		
1. 市立小中学校教員研修会	調整中	
地域連携の教育普及	イ 地域の文化やコミュニティをサポートする事業	
	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
	2. 公民館講座（社会教育課）	依頼により実施
	3. 地域まつり（自治会等）	依頼により実施
	4. 市内公共施設出張展示（各所管課）	依頼により実施
	5. 市内公共施設出張展示ギャラリートーク（各所管課）	依頼により実施
6. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	依頼により実施	
運営	1. 令和3年度考古博物館館報（第51号）発行	3月、600部
	2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年
	3. 令和5年度考古・歴史博物館行事案内発行	4月
	4. 博物館協議会事務局事務	2回/年
	5. 考古・歴史博物館特設サイト制作業務	年間を通して実施
	6. 施設の維持管理	年間を通して実施
	7. 施設整備（休館）	2月上旬

## 令和5年度 歴史博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・保管及び 調査研究	1. 収蔵資料の調査、整理	500点/年	
	2. 市内小学校所蔵資料調査	依頼により実施	
	3. 市内民俗行事調査	年間を通して実施	
	3. 博物館資料のパソコン管理（図書管理・住所管理）	500件/年	
	4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時	
	5. 文化財担当関係調査	年間を通して実施	
	6. 市史編纂関係調査（協力）	〃	
	7. 稲作調査（簡易な稲栽培）	〃	
展示	1. 常設展		
	2. 企画展「開館40周年記念 みなさまと歩んだ歴史博物館」	7/22（土）～9/10（日）	
	3. 企画展「発見・体験昔の暮らし」	11/3（金祝）～2/5（日）	
	4. 小企画展	年間を通して実施	
	5. 季節の展示等	年間を通して実施	
	6. 館務実習展	9/15（金）～12/28（木）	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の 学びと体験を支える事業	1. 市川歴史セミナー	6月～2月 第2土曜日（全8回）
		2. 夏休み体験講座（昔の洗濯体験、和綴じのメモ帳作り）	7/30（日）、8/6（日）
		3. 夏休みスタンプラリー	7・8月
		4. ナイトミュージアム（コンサートを含む）	8/26（土）
		5. 見学会（市川駅から菅野駅）	10/21（土）
		6. 古文書講座（中近世）	3回/年（1月）
		7. 縄文体験フェスティバル（第24回）	3/24（日）
		8. 昔の遊び体験	年間を通して実施
		9. 体験学習指導員定例研修会	1回/1ヶ月（主に第4土曜日）
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを 支援する事業	◎学校関連	
		1. 学校巡回展、出前授業	申し込みにより実施
		2. 小学生向け体験学習指導	11～2月上旬
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
		4. 大学学芸員課程館務実習指導	9/1（金）、9/8（金）～9/15（金）
		5. 学生調べ学習指導	年間を通して実施
◎教員関連			
	1. 市立小中学校教員研修会	調整中	
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニ ティをサポートする事業	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
		2. 公民館講座（社会教育課）	〃
		3. 地域まつり（自治会等）	〃
		4. 市内公共施設出張展示（各所管課）	〃
		5. 市内公共施設出張展示ギャラリートーク（各所管課）	〃
		6. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	〃
運営		1. 令和4年度歴史博物館館報発行	3月、600部
		2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年
		3. 令和5年度考古・歴史博物館行事案内発行	4月
		4. SNS等による情報発信	随時
		5. 博物館協議会事務局事務	2回/年
		6. 施設の維持管理	年間を通して実施
		7. 施設整備（休館）	2月上旬

# 令和5年度 自然博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・調査・研究及び 保管及び	1. 収蔵資料の調査・整理及び専用パソコン管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施	
	2. 資料の電子化	年間を通じて実施	
	3. 図書管理（ボランティア作業含む）	年間を通じて実施	
	4. 長田谷津に関する調査、環境改善、絶滅危惧種保全など	年間を通じて実施	
	5. トビハゼ調査	7月と10月に各1回	
	6. ヒヌマイトトンボ調査	7月に数回	
	7. 剥製制作委託	3月に1回	
	8. 各種研究会への参加、関連施設の視察	可能な範囲で実施	
展示	1. 常設展（市川の自然）	305日開館	
	2. 特別展示室の常時活用（飼育展示など）	305日開館	
	3. ホール小展示（飼育展示など）	305日開館	
	4. 展示解説	305日開館	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の 学びと体験を支える事業	1. およこ自然観察会	実施しない
		2. 長田谷津散策会	毎月1回で12回
		3. 野草名札付け	実施しない
		4. 大町自然観察園環境整備	7月、8月を除く月1回、10回
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを 支援する事業	◎学校関連	
		1. 出張授業	依頼により実施
		2. 小学生等自然体験学習指導（グリーンスクール）	依頼により実施
		3. 中学生職場体験指導	依頼により実施
		4. 大学講義・実習対応	依頼により実施
		5. 部活動支援	依頼により実施
	6. 大学生学芸員課程館務実習指導	8/4(金)～8/15(火)	
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティ をサポートする事業	1. 講座講師派遣（関係課、公民館、市民団体等）	依頼により実施
		2. 大町レクリエーションゾーン（ホタル観賞会開館延長）	7/22～8/6 週末8回
		3. 大町レクリエーションゾーン（少年自然の家チャレンジスクール）	依頼により実施
		4. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	依頼により実施
運営		1. 市川自然博物館だよりの制作及び発行	1,500部/6回（隔月）
		2. 令和5年度自然博物館行事案内の発行	未定
		3. 令和4年度自然博物館年報（No.34）発行	500部 3月
		4. 施設の維持管理及び庶務事務	毎日

## 令和5年度 市立市川歴史博物館企画展開催要項

- 1 タイトル 開館40周年記念企画展「みなさまと歩んだ博物館」
- 2 期間 令和5年7月22日（土）～9月10日（日）
- 3 会場 市立歴史博物館2階特別展示室（市川市堀之内2-27-1）
- 4 入場料 無料
- 5 主催 市立市川歴史博物館  
〒272-0837 市川市堀之内2-27-1 TEL047-373-6351

### 6 展示趣旨

市立市川歴史博物館は、1982（昭和57）年11月1日の開館以来、40年の節目を迎えています。

当館は、1972（昭和47）年に開館した考古博物館と共に、「首都東京に隣接する地域として近年急激に都市化が進み、昔の人々の生活を理解していくために必要な多くの資料が消失しつつあり、これらの資料を保存し、しかも祖先の生活を再現して現在の人々に活用してもらおうとともに、後世に伝えていく」といった趣旨の下に開館しています。

今日まで、常設展・特別展・企画展・季節の展示などの展示会、歴史カレッジ、歴史・民俗学講座、むかし遊び、正月飾り作り、小学校と連携した昔の暮らし体験など、様々な事業を実施してきました。

中でも、学芸員の日頃の調査や研究の成果を、多くの人々に紹介する機会となるのが特別展や企画展で、常設展ではみることのできない資料や、他の所蔵者から借用した資料などを展示する機会となっています。

今回の展示会では、開館から現在に至るまでに開催した、企画展の資料・館所蔵の市指定文化財・未公開資料などを展示し、これまでの博物館活動を振り返っていきます。これらの資料の位置づけやその活用について紹介することにより、博物館について理解を深めていただくとともに、親しみをもってもらえる機会になれば幸いです。

### 7 展示構成

- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| ①1980年代の企画展の主な展示資料 | 泥めんこ、笹屋うどん器、板碑、旅館志がらきの看板    |
| ②1990年代            | 〃 木象嵌職人の机、岡田酒造場看板、日蓮遺文(複製)  |
| ③2000年代            | 〃 御用留、空襲日誌、道標（行徳道）、市制施行関係文書 |
| ④2010・20年代         | 〃 村絵図（曾谷村等）、手児奈掛軸、水戸黄門仁徳録   |
| ⑤館所蔵の市指定文化財        | ワートル薬性論、狩野浄天骨壺              |
| ⑥館のあゆみ年表           |                             |

### 8 関連行事

ギャラリートーク

日時 第1回：7月23日（日）、第2回：8月20日（日）

毎回10：30～11：15

場所 市立市川歴史博物館2階特別展示室

講師 歴史博物館学芸員